

元気・笑顔が
モットーです！



奥州市民活動支援
コーディネーターの
鈴木まゆ子さんが、
市内の市民公益活動
団体を紹介します。

市民活動支援コーディネーター

市民公益活動（市民による自主的・自発的な社会貢献活動）を行う団体を支援することを目的に本年度から新たに設置しました。団体の皆さんの話を聞きながら、情報発信や相談などを行っています。

■問い合わせ

地域づくり推進課 市民活動係
（江刺総合支所・☎ 34-1618）

思いをカタチに 地域づくりの輪



男女共同参画 " おうしゅう "

主な活動の一つは、「お

気軽に考える場を提供

男 女共同参画とは「男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を発揮することができること」です。この男女共同参画を推進するための活動に、市内で取り組みたいという強い思いを持った人たちが中心となり、平成24年3月に「男女共同参画」" おうしゅう " が設立されました。現在の会員は、男性4人、女性25人の計29人で、「協働」によるまちづくりを進める市と共に、男女共同参画を進めるためのさまざまな取り組みを行っています。



笑いの中に気がきが

また昨年度は「蟻の飯（ありのまんま）」と題して、元衣川村長の佐々木秀康さんを講師に迎え講演会を開催しました。会場はあふれるほどの参



打ち解けた雰囲気のおしゃべりカフェ

しゃべりカフェ」での健康や介護についての講話やグループワーク。雑談を交えながら参加者からの話を聴き、家庭での思いや考えを共有しながら交流しています。

加者で埋まり、旧衣川村で働いた時代のエピソードを交えながら男女の公平についてエッセイ風に講演し、参加者を笑いの渦に巻き込みました。こうした活動を通じて、男女共同参画への理解を深めることを目指しています。

人とのつながりを大事に

一番小さな社会は家庭だといわれています。家庭内でお互いに思いやりを持つことで、地域へつながり輪が広がっていく。やがて、その輪が男女共同参画社会の形成につながっていきます。「できることをできる範囲で行ってきたい。これが私たちのコンセプトです」と、会長の佐藤悦子さんは力強く語ります。背伸びをしないで会員ができることを実践しながら、多くの人と手を携えていくことが大切です。今後は、他の市民公益活動団体との連携も視野に入れつつ、老若男女問わず男女共同参画に共感する人を会員に迎え入れたいと考えています。「男女共同参画社会」の実現を目指し、多くの皆さんに男女共同参画を理解

6月23日～29日は
男女共同参画週間
です

職場で、地域で、家庭で、私たちのまわりの男女の協力関係について考えてみませんか



佐藤悦子会長（右から2番目）と役員の皆さん

会員募集中！
男女が手を取り合う社会を目指して、一緒に活動しませんか。
■連絡先 会長 佐藤悦子
（☎ 35-2653）

してもらえるよう、これからも活動を続けていきます。

<今月の表紙>

ミスターブラックホール本間チーム講演会



世間を沸かせた「史上初ブラックホール撮影成功」のニュース。国際プロジェクトの日本チーム代表を務めた国立天文台水沢VLB観測所の本間希樹所長とチーム員による講演会が6月2日、市文化会館（Zホール）で行われました。歴史的成果とその舞台裏が語られ、県内外から詰め掛けた450人は惜しめない拍手を送りました。【関連記事：14頁】

Public Relations Magazine Oshu City

2019. 6 Vol.160

広報おうしゅう
令和元年6月号

CONTENTS

- | | | | |
|----|---------------------------|----|-----------------|
| 2 | キラリ輝く奥州人 | 15 | 地域おこし協力タイムス |
| 3 | 思いをカタチに 地域づくりの輪 | | 市長コラム「おうしゅう羅針盤」 |
| 4 | 財政状況の公表 | 16 | いいとこ、知っとこ おうしゅう |
| 6 | 農業振興ビジョンを策定しました | 17 | まなびの里 |
| 7 | 胆沢城跡歴史公園がOPEN！ | 18 | もっと安心 ずっとおうしゅう |
| 8 | 奥州の春まつり グラフ | | はい、こちら総合相談室 |
| 10 | 「春の叙勲」受章者の紹介 | 19 | 子そだて広場 |
| 11 | 街diary | 20 | インフォメーション |
| 12 | 2019スポニチいわて奥州きらめきマラソン グラフ | 24 | 奥州遺産 |
| 14 | ILC希望のひかり | | |



キラリ輝く
奥州人

68

佐々木 洋子 さん（49歳）

=胆沢小山=

受け継がれてきた味を 次の世代へ

野菜がたっぷり入ったすまし汁をあんかけにした郷土料理「くずます」。祝儀の席で振る舞われるほか、寒い日に体を温める料理として食べられてきた。この郷土の味を伝承する達人として、県の「食の匠」に認定されているのが佐々木洋子さんだ。

子どもの頃から親しんできた郷土料理。結婚後、その作り方の基本や「いわれ」の多くを、義母や近所のお母さんたちから学んだ。小正月のみずき団子、田植えには赤飯、お盆はまんじゅう、秋の栗こ

具材は大根やサツマイモのほか、五色麩を入れて彩り豊かに

飯。四季折々の行事食や伝統食で3人の息子を育てた。一方で、核家族化や人寄せの場の減少で、若い世代の郷土料理離れを危惧した洋子さんは、平成24年に食の匠として歩み始める。「脈々と受け継がれてきた食を次の世代に伝えたい」との志を胸に秘め、講習会やイベントなどで郷土料理を作る楽しさを伝える活動が続いている。「遠くない将来、自分のキッチンを持ちたい。そこで講習会や、地元食材の料理を提供できれば」と受け継がれてきた伝統は洋子さんの夢を乗せて広がっていく。



ささき・ひろこ◎昭和44年、水沢生まれ。「胆地方食の匠研究会」の最若手として郷土料理の伝承活動を行う。趣味はトールペイントと菓子作り。義父母、次男夫婦、三男、孫1人の7人家族